



現代アート発信ギャラリー
7-15 CAS

「タデオ」の発祥地であったこの場所。オ美術館などの展覧会の施工を一手に引(下左)。2年前、本社の移転に伴い、ギャラリーをつくってしまった。「ここは作家、好きが集まり、つながっていく場所。アーサイ、面白い出会いがありますよ!」

3-17-15 ☎03-3823-6216
12:00~20:00 毎月



革の魅力を最大限生かしたバッグ&小物
アジェンダ



浅草で製造・卸業を25年間続けてきた会社「ボーテッサン」。スタッフたちのお気に入りだった谷中に、'02年4月、初の直営店をオープンした。しかも地下にアトリエ付き! 牛革の加工の技術や染色の仕方の工夫はさすが革専門店。デザインの発想はすべて素材から得るとい。マニッシュなデザインのレディースやフォトフレームなどの小物など欲しくなるものが必ずある。

●東京都台東区谷中7-4-10
☎03-5832-8505
11:00~19:00 毎月

今では作られていない掘り出し物も!
さんだら工芸

国内は沖縄、九州、三重、山形、海外ではベトナム、ラオス、中国、韓国のもものがずらりと陳列。もともとは東京都の教育庁に勤めていたという主人の佐々木尚さん。上野の森美術館に勤めていたころ、谷中を散策して、「好きな生活道具の店をこんな所でできた」と13年前、夢を実現。籠を中心にベトナムの布もの、琉球ガラス、韓国の陶器などもアリ!

●東京都台東区谷中7-18-6 ☎03-5814-8618
10:30~18:00 毎月



DECO NEWS

photos:Nori Nakayama

インテリアやアート、デザイン好きが注目する
“横丁文化”を楽しもう

町の中心でありながら、メインストリートには面していない小道や路地裏には、“横丁”といわれる戦前戦後の名残の“文化”が今、まだ残っていて、そこには再開発から逃れた古い家屋や商店が立ち並んでいる。残り少なくなった、昔懐かしい町並みと活気を取り戻そうと、その土地に住む人々が立ち上がる兆しが!! なかでも今注目の、東京の「谷中ギャラリー横丁」と「吉祥寺ハモニカ横丁」を徹底取材!



イグサの香りに誘われて—ギャラリーを併設する畳店
クマイ商店

創業300年、寛永寺をはじめ、この町の多くの寺に畳を納めてきたクマイ商店。マンション住まいの人にもと、ミニサイズの花ござや、2~3畳の畳のラグマット、タタミベッドや座面が畳のタタミチェアなど商品は幅広い。その進化に驚かされる。色とりどりのリボン状のものは、なんと畳の縁。1メートル単位で購入でき、これを利用したバッグなどの小物も販売。畳をインテリアのひとつとしておしゃれに取り入れたいと思わせる店。写真下左はオーナー婦人の熊井千代子さん。この町のことならなんでも教えてくれる!

●東京都台東区上野桜木2-13-3 ☎03-3823-0901 10:00~18:00 毎日

Yanaka Gallery Yokochō
谷中ギャラリー横丁

谷中は今でも、江戸情緒が残る下町。寺が約70もある寺町で、その門前を緩やかに町家が立ち並ぶ。芸大、上野の森美術館とも近い谷中にギャラリーが増え続ける。この界隈は、ギャラリー横丁となる?!

下町風俗資料館の、旧吉田屋酒店(左上)。江戸商家の建築様式「出桁造り」で、長年の市井の暮らしの奥深さを今に伝える生活資料館。その資料館がある上野桜木の交差点風景(上右)。日暮里駅からスタートするか、根津駅からスタートするか……1日かけて、ゆっくり下町情緒を味わおう!



芸大卒業生が営むアーティスト・ギャラリー
gallery J 2

経営者の豊福亮さんは弱冠28歳。本人も芸大卒業生で、現代作家として活躍中だ。インスタレーションは作品がわかりだったり、搬入から展示まで通常の画廊では、わがままが利かないことが多い。ならば作家ができる限り自由にできる画廊を自分で! と、昨年3月、芸大の近隣にオープンさせた。スタッフたちも皆アーティスト。無限の可能性を秘めた若き芸術家たちの実験室として、注目したい。



●東京都台東区上野桜木1-7-5 B1
☎03-3823-0292
11:00~19:00 (最終日は~17:00)
毎月

日本画家たちの社交場
得應軒

「上野の芸大にも近く、昔は多くの芸術家が生きて、うちにも先生方が出入りしていました」と、88歳になる主人の宮内盛雄さん。名を聞けば、横山大観、平山郁夫……と日本画の巨匠ばかり。それもそのはず、明治の半ばから日本画専用の筆を作り販売。今では数千種の岩絵の具も扱う。谷中の生き字引的存在のご主人を頼りに、来店する人も数多し!

●東京都台東区谷中1-1-22 ☎03-3823-4116
9:00~18:00 毎日



静寂な時間が流れる和食器店
韋駄天

着物、器、骨董に造詣が深い女性オーナーの店は、1年前にオープンしたばかり。大家さんに交渉して古民家に古材を持ち込んで改装。1階は和食器店とカフェスペース、地下はギャラリースペースとなっている。有田、信楽、備前など8名ほどの作家の作品が常設されている。店内には私物のアンティーク着物が飾られ、購入したいという客も少なくないとか。外国人客も後をたたない。

10:00~18:00 毎月

銭湯跡に飾られる
コンテンポラリーアート
スカイ・ザ・バスハウス

●東京都台東区谷中6-1-23
柏湯跡 ☎03-3821-1144
12:00~19:00 毎日

昔懐かしい風景がそのまま残る町並みや、人情深い下町の住人……その魅力に引き寄せられるようにして人々が集まり、ここ5、6年でギャラリーやショップが格段に増えていった。「スカイ・ザ・バスハウス」や「韋駄天」などのように、谷中が好きだからこそ、昔の建物を生かしながら景観を守り、運営していく。そうすることで住人に受け入れられ、町が活性化するという循環も生まれた。アートが町に帰ってきたのだ。クマイ商店の熊井さんも、町づくりを目的としたイベント、芸工展に発足時から積極的に携わってきた。「芸術の秋、谷中は町中、アートのイベントで活気づきます。この機会にぜひ町を訪れ、楽しんでほしいです。」職人芸とアートが介在する町、谷中は、町を愛する人たちによってギャラリー横丁として発展している。

寛永寺の存在によって谷中は、江戸の寺町となった。創建とともに子院が集まり、花屋、お茶屋、畳屋、石屋……さまざまな商店ができ、住人も増えていった。寺町といっても京都とは違い、庶民的で開放的。今も昔も、そんな親しみやすい町情緒に惹かれ、人は集まってくる。

明治20年、東京美術大学(現、東京芸術大学)が上野の森に移転。多くの芸術家たちがその近隣に住むようになる。1910年から谷中に代々店を構える「得應軒」の宮内さん。「昔は界隈に住む50、60人もの先生の所へ年始の挨拶へ回ったよ。一年で正月がいちばん忙しくてねえ」。しかし、道路が整備され、地価が上がると、芸術家たちは豊島区や練馬区へ移って行ったのだとか。

職人芸とアートが混在する町、谷中が今、面白い!

千駄木、上野まで、秋は芸術祭りが盛りだくさん!

お出かけ! 谷中2004
Oct. 11 MON
美術館の有志が'97展覧会、パフォーマンスなどがめぐる押し。毎今年「地域通貨」的なサービスを受けたい! ●art-Link 上 ☎03-5518-7008

江戸の芸能・稲人文化を覗く!
谷中芸工展2004
Oct. 2 SAT ~ Oct. 11 MON
谷中の生活文化を大切に育てたいと思う有志が町の活性化のために始めた企画。13年目の今年のテーマは「立ち止まり」。伝統工芸の店から煎餅屋、個性的なギャラリーが参加型の企画を催す。この町に住みたい、と思わせる出会いがきっとある! ●谷中芸工展実行委員会 ☎03-3821-9118